



にしなふみひで
仁科文秀 議員



小林市長就任で市政運営はどう変わるのか

議員 民間出身の市長は、市政にどのような考えで臨むのか。

市長 市民の満足を第一に考えて市民との対話を重視し、現場にしっかりと出向く。民間時代のグローバルな仕事や経験、ノウハウを市政運営に積極的に取り入れる。

議員 今や地方創生、人口減少の時代。限られたパイを奪い合う自治体間競争の時代に、他市町に絶対勝つという強い意識はあるのか。

市長 この競争に勝ち抜かなければ笠岡の明日はない。職員には、本当にいいことはどんどん学べ、まねしていいと言っている。その中で、笠岡市独自のもの、新しいものが出てくるはずだ。

議員 全員営業の観点から言うと、笠岡の売り出しに545人いる市の職員が協力していけば、たいへんな力になると思うが。

市長 職員には積極的に声をかけ、市職員としてのプライドを持ち、笠岡のPRに活躍してもらうための素地をつくっている。一人ひとりが、セールスマンだという意識を持ち、どこに出ても笠岡のPRがしっかりとできるようにしたい。

議員 市役所は異動が非常に多い。しかも2年程度の短期間で変わる。これで結果に責任が持てるのか。

市長 私は、特に課長・部長には少なくとも4、5年は同じところで仕事をしてもらい、そこで目標設定をして、計画をつくり、実行してもらおうつもりだ。



おおもとくにみつ
大本邦光 議員

高齢者に安心な交通サービスを！

議員 今後ますます高齢者による免許証の自主返納の増加が予想される。このため、今後は移動手段を持たない方々への対応が重要になる中、自宅からバス停までの距離が遠く、公共交通が手軽に利用できない地域も多くある。特に、日々の買い物をする上で、何か手だてはないのかと、市民の方から多くの声を寄せていただいている。今後の買い物難民への対応策をたずねる。

市長 今年度作業を進めている地域公共交通網形成計画の策定の中で、コミュニティバスや自家用有償旅客輸送等の実施も視野に入れ、買い物に困難を抱えている地域の声を聞きながら、利用者と地域の実情に合った交通体系の構築を検討していく。



議員 群馬県の前橋市で取り組まれている乗り合いタクシーは利便性が高いと考える。今後活用してはどうか。

市長 大人数の際の対応やタクシーがそれだけ充足にあるか等の調査も含め、非常に参考になる例として取り上げて、良い公共交通手段を模索していきたい。

災害廃棄物処理計画の策定を！

議員 国は自治体に対し、大規模な災害に備え、事前に仮置き場や処理方法を定めた災害廃棄物処理計画の策定を求めているが、笠岡市ではどうか。

市長 国の指針や県の計画と整合性を図りながら、早期に笠岡市災害廃棄物処理計画を策定したい。